

# ZAITEN GOLF

## 2024

# 芝上没我

プロ棋士が「盤上没我」と  
揮毫するなら  
われらゴルファーは……

レジェンド  
激白

### ジャンボ尾崎

オレの愛弟子「育成法」とは——

特別対談

東レ・大矢光雄社長 × プロゴルファー・タケ小山



【この人に聞け！】

# フルショットは誰にでもできる—— 打ち分ける「引き出し」の多さが 武器になる

三井住友海上火災保険  
玉木康治さん (53歳)

レッスンにも真面目に通った。「YOUTUBE」に出ていたメソッドも試した。そのときはできて、すぐにまた元通り。そんな悩み多きゴルファーの皆さん、トップアマチュアの話聞いてみたらいかげんかでしょう。プロのアドバイスはちゃんぶんかんぶんでも、トップアマチュアの練習法なら真似できるかもしれない。

そこで、今年1月の「リロクラブ全日本企業対抗ゴルフトーナメント」の個人戦で見事、優勝した三井

けは。

ゴルフを始めたのは、厳密に言う時期的に2回ありまして、18歳で前の会社に入ったときに1回目でした。1990年のことですが、そのときに先輩にゴルフをするぞと言われて。じつは、バブル崩壊直前で、勤めていた会社でハワイへの慰安旅行があったのです。そこでゴルフをしようと言われたのです。そのため慰安旅行の前に無理やり練習場へ連れて行かれ、ハワイで初めてゴルフをしたのです。

——前職では仕事上ゴルフをするこ  
とがあったのでは。

いいえ。そこでもまったくありませんので、それ以来、ゴルフをすることはなくなりました。

——そのデビュー戦のスコアは。

108でした。もともと野球をやっていたので、当たれば飛ぶという感じでした。その時は、楽しくも辛くもないゴルフでした。ただ、周りの人はゴルフをやり慣れている方ばかりでしたので、ナイスショットを見ていて一方で、私はチョロチョロしていました。ただ、同伴者も優しかったので辛いということはありませんでした。

その一方で、止まっているボールなのになんで当たらないんだという気持ちがありました。そして、当たっ

たところでなぜ曲がるんだ、なぜ飛ばないんだという気持ちを抱きました。

——それ以降、なぜゴルフを続けな  
かったのですか。

じつは私は多趣味で、オートバイにも乗るし、草野球もやっています。夏にはマリンスポーツもするの  
で、ゴルフをしている暇がなかった  
んです。もともとゴルフについては  
そこまで興味を持たなかったの  
で、それ以降、まったくゴルフには  
タッチでした。

——それなのに、再びゴルフクラブ  
を握ることになります。

はい。43歳のとき、すでに途中で三井住友海上火災保険に入社しておりました。転職してきたこともあり、前職で所属していた草野球チームとは次第に疎遠になってしまったので、それでも何か運動はしたいなと思っていて、ふと周りを見るとゴルフをしている人がいて、始めることになりました。

——それが2回目のデビューです  
ね。

そうです。このときに初めて中古のゴルフクラブを買いました。

——43歳で本格的に始めて、わずか  
10年で社会人のトップに上り詰めま  
したが、一般のゴルファーは100  
切りに悩んでいる人が多いです。そ

んな壁はなかったのですか。

これを言うと嫌味に聞こえてきてしまうかもしれませんが、ゴルフを始めて100以上叩いたのは2回だけなんです。18歳のときの108が1回目で、43歳から始めてからは100超えは1度だけです。

——羨ましい限りですが、  
運が良かっただけです。

——ゴルフは運だけではそうは上手く行きません。天性のゴルフ感というか、センスを持ち合わせているのでは。

高校野球を一生懸命にやったというわけではありませんが、ピッ

チャーをやっていましたので、ボールが曲がる理屈は何となく頭の中に落とし込めていましたね。

——つまり、思ったところに自在にボールを運べるということですか。

いえいえ、そんなことはないのですが、ボギーペースでいけば90で、100を切ろうと思ったら、9ホールはダボを打つてもいいという楽な気持ちでプレーをします。それならスコアは99ですので100を切ることになりません。そんな感じで上手くボギーが続いて、たまにダボがあるくらいでまとめていたという感じですよ。ボギーでいいという気持ちでやると、ゴルフを



RELO CLUB



全日本企業対抗ゴルフ  
個人戦 全

2024年「リロクラブ全日本企業対抗ゴルフトーナメント」個人戦で見事に優勝

ていること自体が楽しくて、それでいいやという気持ちですね。気楽にやっていました。——では、18歳のときに1回だけのゴルフで悩んだ、どうして曲がるんだという気持ちなどなくなっていたのですね。いいえ。悩みはずっとありますけれど、だからと言ってレッスンな

どに通うこともなく、あくまで我流でやってきました。職業柄、事故車両の損害調査を主にしています、その分野は物理学に近いのです。ゴルフも物理学ですので、止まっているボールをドロウで打とうと思ったり左回転を加えればいいわけですよ。そこで、私はどのようにクラブヘッドをぶつけたらそういう回転になるのだろうかということなどを考えて、それをイメージして打っています。それに、ピッチャー経験者なので、ドロウボールはカーブを投げるのと一緒ですので、なんとなくイメージはできていたのです。

——頭で理解できてもなかなかそれを実行することはできません。

そうですね。そこで、頭で思ったようにクラブを振るために、スイングを1分ほどかけてゆっくりと動かし、クラブの動きを観察しながら試していったのです。それを続けていくと、クラブヘッドがどう入ればどう飛ぶのがわかってきました。もともと野球経験者はフェードヒッターになりがちなので、私はずっと真っ直ぐ打ちたいと思っていて、繰り返し練習しているうちにスライスからフェードになり、それも収まりストレートになってきたという感じですね。

——では、現状の練習はどのように

しているのですか。

悩んだときには、たまに「YouTube」などの動画も見ますが、あまりにも情報が多すぎてわからなくなりますので、普段は見ません。練習場で打っていることが多いですね。練習は、仕事の段取りにもよりますが、火水木の平日3日は仕事が終わってから行きます。ただ、帰宅が夜の8時半や9時ぐらいになったら行きませんが、それまでに帰れたら、練習に行こうと自分の中のルールにしています。ただ、1回の練習時間はホントに短いと思います。私の行く練習場は、1000円で120球打てるのですが、それを打って帰ります。時間にして40分程度。

——その120球でどのような練習を。

メニューが自分の中で決まっています、最初に57度のウェッジで70ヤードを打って、次はピッチングで90ヤードをイン出しで打って、8番アイアンで軽めのフルショットを打って、その次にドライバー。また、57度を持ち替えて、今度は10ヤード内ぐらいをちょんちょんと打ちます。その後は、60度のウェッジで20、30、40、50ヤードを打ち分ける練習をして、それからユーティリティやフェアウェイウッドですかね。そしてドライバード先にある柱と柱の中に収まるよう



飛距離をコントロールすることが重要

に打ちます。そして、たまに8番アイアンに戻って、ストレート、ドロ、フェード、ライン出しという4種類を1セットとして、5セットほど打ちます。それぞれ、だいたい10球くらいずつですかね。

——この練習を積んでいけば、大会で優勝できるほどの実力が着くわけですね。

どうなんでしょうか。あくまで私の考えですが、私は「57度で70ヤード」というひとつの基準があつて、同様に「ピッチングなら90ヤード」、「9番アイアンなら100ヤード」という基準を作っています。これはフルショットの飛距離ではありません。それらのクラブでフルショットすればもつと飛ぶはずですよ。57度のフルショットなら100ヤードほど飛ぶと思います。それをあえて、57度で70ヤードを狙うの

です。そうすると、ハーフスイングかスリークォーターぐらいのショットになります。こうした基準を打てるようになる、クラブ間の飛距離まで、意外と埋めやすくなるのです。

——つまり、飛距離のコントロールショットの練習で、例えば、57度でフルショットすることはしない。

ないことでもないですが、100ヤードを57度でフルショットするならばピッチングで打ちます。そのほうが左右にボールが散らばることが少なくないと考えています。どうしても打ち上げないといけないロケーションなら57度を選択するでしょうが、そうでなければ高い球を打つ理由もありません。このスイングでここまでの振り幅だったらこの飛距離という私りの基準ができています。

——つまり、多くの人はフルショットでの距離でクラブ選択をしています。フルショットではなく何ヤード打つかという練習をされている。そうですね。フルショットばかりやっても多分うまくならないと

思います。飛距離をコントロールできる方が断然いいと思います。例えば、林に打ち込んだ場合、セカンドショットは上空が枝に覆われていて上げることができません。そんなとき、肩ぐらいの高さでスイングすれば100ヤードくらい飛ぶとわかっている。低い球で対応できるわけです。

——今、年間どれほどラウンドしていますか。

100回ほどラウンドしてると思っています。土日はラウンドという感じです。

——ベストスコアは。

近所に5000ヤードもないホントに短い「大阪バブリックゴルフ場」で62を出したことがあります。練習にはもってこいのコースです。

——得意クラブは。

なんだろう、8番アイアンかな。思い通りに球を打ち分けられるし、グリップが一番傷むのもこれ。その次はドライバーかな。

——今年1月、日本でも最大級の企業対抗ゴルフ大会「リロクラブ全日本企業対抗ゴルフトーナメント」の個人戦で見事優勝しました。2位に3打差、唯一のアンダーと圧巻でした。勝因は。

何ですかね。ロングはさほど長くなかった。すべて2オンを狙っていきました。攻めることが自分のスタイルでそれが楽しいんです。その結果、ダボを叩くこともあります。ダメだったらまた練習すればいいやと、開き直っていたのが良かったのじゃないか。プレッシャーもありませんでした。楽しくやって、それでスコアも出せたらしいというくらいに考えていました。

大会に出たときはいつも同じで、一番は楽しもうということ、周りに気にしない。周りを気にしていたら何もできなくなると思っています。自分のできることをやろうと思っ

——今後の目標は。

日経カップの予選は不甲斐ない成績でしたので、日経カップ本戦で優勝したいと思っています。団体でも個人でも。